

～京都大学ホームカミングデイ～



京都大学技術士会

第7回記念大会・特別講演会

日時：2019年11月2日（土）15:00～17:30

主催：京都大学技術士会 ※講演会終了後、国際交流ホールⅡで懇親会を実施します

場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホールⅠ 下記地図参照

記念講演：「京都大学技術士会発足から今日までを振り返って」

講師：京都大学技術士会会長 大西 有三

「京都大学の工学教育の現状と課題」

講師：京都大学大学院工学研究科長 大嶋 正裕

特別講演：「宇宙空間を利用したGW級マイクロ波電力伝送システム
と受電装置を一体化した揚水式海洋インバースダム構想」

講師 石川 容平（いしかわ ようへい）



京都大学 生存圏研究所 特任教授

（一社）海洋インバースダム協会 会長

1972年名古屋大学理学研究科修士課程修了、修士（理学）

1994年東北大学工学研究科博士課程修了、博士（工学）

2003年（株）村田製作所取締役執行役員・先端技術開発センター長

2005年（株）村田製作所シニアフェロー・次世代技術研究所所長

2009年京大生存圏研究所特任教授

2014年（一社）海洋インバースダム協会会長

特別講演内容：

平成30年7月3日にエネルギー基本法が閣議決定された。

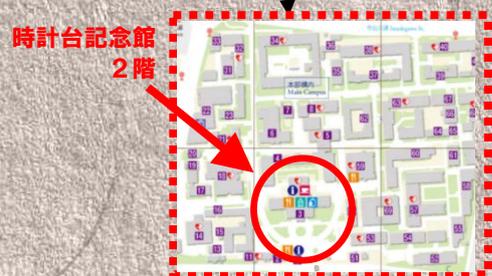
パリ協定順守とエネルギー自給率向上を目指し、再エネを主力電源と位置づけ、2050年までに温室効果ガス80%削減の目標値が示された。地上の再エネは時間変動が激しく、空間に広く分散するため狭小な国土を持つ我が国での普及は環境問題、コスト問題、文化摩擦などで大きな困難を伴う。一方、宇宙太陽発電システムは国土の広さや人口密度などには殆ど関係しない地球規模の再エネシステムである。基本コンセプトは1967年米国のP.E. Glaserによって発表された。主な構成要素は太陽発電パネルとマイクロ波送電用アンテナ部分からなる静止軌道上の発電衛星本体と地上（海上）の海水揚水発電所（海洋インバースダム）を備えた受電用アンテナ装置である。従って入力宇宙太陽光、出力は地上の商用電力である。本発電システムの特長は気象条件によらず24時間安定した商用電力を系統接続できることである。

参加費：講演会 3000円、懇親会 4000円

申込み方法（インターネットで申込みお願いします）

京都大学技術士会のホームページ <http://ku-pe.net/> のトップページにあるイベント案内「お申し込みはこちらから！」から申込みしてください。

開催場所：京都大学吉田キャンパス



正門